

別紙様式

## 組織評価の改善状況報告書

平成 29 年 3 月 15 日

評価会議議長 殿

創造科学技術大学院長

組織評価に関する実施要項第10条に基づき、組織評価（自己評価及び外部評価）結果に係る要改善事項について、次のとおり平成28年度の改善状況を報告します。

要改善事項
【基準5】修了生の質の保証（改善による効果はどのように測るのか） 【基準8】教育の質の定量化の方法
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
論文数、論文の質、論文のインパクトファクター、国内・国際会議での発表件数、受賞数、新聞・メディアでの報道・紹介記事などを、大学院長表彰に反映し、web等でもリアルタイムで紹介するとともに、学長表彰候補者として推薦するなど、質の向上につなげている。学生への教育の質の定量化は、企業へのアンケートなどを含めて課題として検討して行く。
改善状況
論文数、論文のインパクトファクターや国内・国際会議での発表件数、受賞数、新聞・メディアでの報道・紹介記事などを定量的に収集している。大学院長表彰については学長表彰にまでは届かなかったものに関して実施する予定である。卒業生が学位取得後に民間企業に就職する件数は極めて少ないため、企業アンケートはほとんど意味が無いため、これは改善計画から取り下げさせていただくこととした。
達成年度（予定を含む）
29年度に達成予定

要改善事項
【基準6】就職した人たちの追跡調査を行い、創造科学技術大学院教育の効果、有効性を検証されたい。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
修了生の就職先とその推移から検証を試みる。25年度内に、これまでの年度毎の就職先を産学官に分類した一覧表にまとめてWebサイトで公表すると共に、次年度以降もデータを蓄積して公表する。また現在、創造科学技術大学院の同窓会組織を立ち上げる準備を進めており、

修了生の現状を把握および追跡調査を実施する予定である。

改善状況

修了生の就職先のweb公開は既に大学全体のwebサイトにて公開をしている。同窓会組織の立ち上げについては修了生の多くが外国人であり、実質的に機能しないと考えられるため、この項目は取り下げさせていただくことにした。

達成年度（予定を含む）

28年度で達成済み